



日本被団協の皆さん

ノーベル平和賞受賞おめでとうございます！

「人類が核兵器で自滅することのないように」との思いで長年に渡り活動を続けて来られ受賞に至りました。演説の中で被団協代表の田中さんは、「核兵器の保有で戦争を抑えられると信じる人々がいる、今の世界に限りなくやささと憤りを覚えます」と投げかけました。アメリカの核の傘の下で守られていると信じる、日本政府はアメリカの言いなりになり、防衛費を増額し、沖縄へ米軍基地を押し付け、思いやり予算なるものまで計上しています。日本政府は被爆者にも、沖縄の人々の苦しみに寄り添おうとしないのです。

そして田中さんはこう続けました。「日本政府は一貫して被爆者への国家補償を拒み、放射線被害に限定しています。（原爆で亡くなった人への償いは一切していません。）と繰り返し訴えていました。被爆者は長年、病苦と生活苦と差別と偏見に苦しんでこられたのです。自分達が体験した悲惨な苦しみを二度と、世界の誰にも味わせてはならない」との思いを強くして、核兵器廃絶を訴えました。

野田・九条の会は被爆者に寄り添い核兵器廃絶を訴えます。日本政府は速やかに、核兵器禁止条約を批准し、核のゴミの処理方法もないまま再稼働した、原発をただちに停止することを望みます。

今、韓国では「非常戒厳」宣言が尹大統領によって出され、大混乱しています。日本でも自民党草案で同じような「非常事態条項」を憲法に設けようとしています。これは、基本的人権の制限を行うことができるようになることです。全く必要な法案と考えます。

ウクライナやガサ地区と問題はたくさんありますが、授賞式に親善大使として同行した高校生の「微力だけ」と思っています。この言葉を糧に頑張って活動が続けたい

＊日本原水爆被害者団体協議会

新年明けましておめでとうございます



今月の予定です



1月5日(日) 13:30～16:50

DVD 視聴と『栄光のランナー 1936 年ベルリンオリンピック』
ディスカッション

南部梅鄉公民館

南地域九条の会

1月11日(土) 13:30～16:00

野田・九条の会 「登戸研究所」 3月研修旅行に向けて事前学習

1月例会 学習「企業・団体献金」とは？

櫻のホール 研修室 野田・九条の会

1月13日(月・祝) 9:30～10:30

成人にアピール 九条通信配布とボードでアピール

文化会館前 歩道

1月19日(日) 13:30～15:30

政治や社会のこと気軽に

自由参加 「おしゃべりカフェ」 おしゃべりしましょう。

2月9日(日) 13:30 ~ 16:50

DVD 視聴と
意見交換

南部梅鄉公民館

南地域九条の会

昨年12月の例会で

2025 年の活動を話し合いました。



例会の参加者の減少、魅力のある例会の持ち方について意見交換をし、新年の予定を話し合いました。

主な計画

- 👤 戦跡などの現地見学会の実施
- 👤 講演会
- 👤 気軽に参加しやすい駅前おしゃべりカフェを検討
- 👤 賛同者を増やす活動

＝戦跡の見学会について＝

「登戸研究所見学会」を3月に実施できるよう計画します。

登戸研究所は太平洋戦争中、秘密兵器などの研究をしていた陸軍の研究所です。川崎市の登戸にありいまは、明治大学平和資料研究所として保存・公開しています。野田・九条の会1月例会ではアニメ映像を見て事前学習をします。

昨年行われた衆議院選挙は、長年積み重なってきた言い知れない暮らしへの不安が現政治への不信としてはっきりと現れた。自公は過半数割れとなり、暮らしの向上を訴える少数野党が大きく議席を増やした。象徴的となったのが「103万円の壁」で、政治がそもそも長年取り組まず放置してきた問題を手取りを増やすとの分かりやすいアピールで国民に気づかせてくれた。この30年、実質賃金は低下しつぱなしのところに円安による物価高騰が重なり、生活は貧しくなっている。

公表されている先進諸国の経済成長率は全て右肩上がりが続けているにもかかわらず、ただ一カ国のみ底を這うように低迷するのが日本だ。

なぜか向上しない暮らし

データは嘘をつかない。公表される経済に関わる図表は、バブル崩壊以降の政策の失敗を如実に示している。国民に大きな負担を強い、特定のところは優遇するとの傾向が否定し難い。身近なところの消費税を取り上げてみよう。3%で始まり5、8%増税、そしていまでは10%まで上がってきた。ところが逆に当初40%台の法人税は、消費税が増税される毎に税率は低下し、いまでは20%台まで減税されている。国の一般会計から見れば、法人税減収分を消費税増

税で補っていることはもはや明らかで、呆れることに経団連はさらに消費税増税を政府に求めている。政府がいう「消費税は社会保障の財源」との説明が成り立たないことは、躍進した野党の鋭い国会追求でもはっきりしている。消費税負担が暮らしの足を引っ張っていることは明白だ。

減税は実現できる

自公の少数与党化で国会が攻守ともに拮抗し、民主的な国会を取り戻した。国民の所得を増やすにはこの30年の政策を改めなければならないと思う。103万円の壁に続き、消費税の減税また廃止を、そして法人税で応分の負担を求めよう。また財務省のいう財政健全化(PB)は妥当であるかどうかの議論も伯仲国会で明らかにしてほしい。

参院選で転換させよう

昨年末の国会で久々に与野党の議論が噛み合う姿を見ることができた。本年の7月には参院選が予定されている。私たち有権者は今、国会で決まることが暮らしを決めることを身をもって体験している。憲法15条の「すべて公務員は、全体の奉仕者であって、一部の奉仕者ではない」の下にある国会議員は、政策を歪める企業・団体献金は、受け取らず禁止せよと声を上げ、参院選で与野党伯仲にしたい。

亡き義父への思い

鈴木孝雄



毎年、野田市で開かれる「平和のための戦争展」へ私の妻は戦争の資料を出展する。

「原爆の悲劇を伝えるパネル」や原爆瓦、当時の国民服などである。これらは、義父が数十年かけて集めたものである。

20年前に義父が亡くなったときに、妻はその管理処分を私に任せた。しかし、余りの多さに驚き、また理解力不足で、9割方は義父の知人に譲ったり、処分してしまった。今では、数十点しか残っていない。

義父が生きていれば98歳になる。19歳の給仕兵として、終戦を迎えたとのこと。



戦後、都内の中学校教員になった。そのとき、同僚に長崎で被爆した江口保（広島への修学旅行を計画実行した先駆者）という人がいた。義父は、彼に協力し自らも取り組んだ。

また、本人自身も毎年広島を訪れて、現地の知人や被爆者と交流を深めたとのこと。

今、亡き義父と語りたい！核兵器の脅威や福島原発事故、核兵器禁止条約などを。